

★今週の聖句

「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」
マルコによる福音書 6:4

★ ねらい

- ① イエス様は神の子であるということを心に刻む。

★ 説教作成のヒント

- ・ 故郷の人々はイエスの兄弟を知っていた。イエスは自分たちと同じただの人間にすぎないととらえ、神の子として受け入れなかった。
- ・ イエスのすばらしい業の背後には神がおられた。その視点を持つならば、故郷の人々は「驚き」が「信仰告白」になったはずである。

★ 豆知識

- ・ これまでイエスの活動の中心はガリラヤ湖周辺であった。この箇所は故郷ナザレに戻った場面である。直前の箇所は「信仰」が強調され、この位置では「不信仰」が強調されている。
- ・ イエスに対する家族の無理解はマルコ3章20節以下に記されている。
- ・ 2節「イエスは会堂で教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った」の「驚く」は、接頭語エク<外へ>とプレッソー<打つ>の合成語。意識が外へ打ち出された状態を表し「たまげる」の意味。特にイエスの振舞い、教えや奇蹟が引き起こす驚きを表す。

★ 説教

イエス様はたくさんの人々に神様のお話をしてくださいました。イエス様のお話を聞いた人は、不思議と心が暖かくなりました。もっともっとイエス様のお話が聞きたくなりました。イエス様の服にさわった女の人は、長い間苦しんできた病気が治ってしまいました。もう治らないと思っていた病気がすっかり治ってしまい、びっくりしました。この女の人は病気が治ってとてもうれしかったと思います。わたしたちはそういったお話を聞くと、やっぱりイエス様は神様の子なんだと思います。

ある日、イエス様は子どもの時にお過ごしになったナザレという村にお帰りになりました。礼拝堂で神様のお話をしてくださいました。聞いていた人たちはお話をしてくださったイエス様をよく知っていました。「この人はあの大工のせがれでしょ、マリアの息子よ。何でこんな知恵のあふれた言葉を話すの?」「あの兄弟のひとりよ、こんな奇蹟をするなんてありえない。何かしかけがあるんじゃないの」。村の人たちの中には、子どもの時、イエス様と一緒に遊んだ仲間かもしれません。イエス様と一緒に食事をしたこともよく覚えていたかもしれません。服装も自分たちと特別に変わっていません。ですから村の人たちは、イエス様を自分たちと同じ人間としか見れませんでした。イエス様を神様の子と信じることはできなかつたのです。

でも、わたしたちはイエス様が神様の子であることを聖書から知らされています。イエス様は十字架の上で死なれましたが、三日後にはよみがえってくださいました。イエス様は復活という大きな奇蹟をしてくださった神様の子です。イエス様はわたしたちと変わらないからだを持っておられます。マリアのお腹からお生まれになりました。イエス様は子どもの時代には友だちと一緒に遊んだり、仕

事の手伝いをされました。イエス様はわたしたちと変わらないからだを持って生きてくださった神様の子です。イエス様が語られた言葉は、神様のお言葉です。だからわたしたちはイエス様のお言葉を聞くと心が暖かくなるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 3 番

1 1 9 番

やってみよう

☆不信仰な心は捨てよう

<用意するもの>

新聞紙、ピンポン玉 2 個（2 色）

- ① どんな時、神様を信じてるって思うか紙に書いてみよう。
（1 人 1 枚でもいいし、大きめの紙にみんなの意見を書いていってもいい）
ex) 教会に来た時、お祈りする時、嬉しい時、こわい時・・・。
- ② 今度は、どんな時、神様を信じてないって思うか書いてみよう。
ex) 教会から離れている時、いいことがない時、いじわるな時・・・。
※子供達の気持をうまく引き出してあげてください。
- ③ 今日の聖書の箇所を読んでみる。ナザレの人たちはどうしてイエス様のことを信じなかったのか話してみる。
- ④ 2 色のピンポン玉の片方を信じる心のボール、片方を信じない心のボールにする。
- ⑤ 新聞紙の真ん中にピンポン玉の大きさぐらいの穴を開ける。
新聞紙の周りをみんなで持ち、信じる心ボールは落とさないで、信じない心ボールだけを落とす。（2 人ずつ、または 4 人ずつやってもいいし、グループ対抗でやっても盛り上がる）

2009年8月9日 聖霊降臨後第10主日

マルコ 6:6b-13 アモス 7:10-15 エフェソ 1:3-14

★今週の聖句

「十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。」

マルコによる福音書 6:12

★ねらい

①イエス様は宣教のために弟子たちを遣わしてくださった。

★説教作成のヒント

・弟子たちの伝道の内容は「悪霊の追放」と「福音の宣教」であり、基本的にはイエスの働きと同じ内容であった。

★豆知識

- ・二人が一組になって行動するのはユダヤの習慣であった。
- ・8節「杖」は野獣を撃退するために用いられた。ここでは旅をする際の危険防止のための杖である。
- ・巡回伝道者から教えを聞く者が、伝道者のために宿泊や必要なものを準備するのが当時の習慣であった。より良い待遇で迎える家があっても、そちらに移るようなことはしてはならないとイエスは命令した。
- ・ユダヤ人が外国旅行をしてパレスチナに帰った時、異教の汚れを聖なる地に入れなかったために国境で足の埃を払う習慣があった。福音の宣教を拒否する者たちにも同様に「足の裏の埃を払い落とす」（11節）という象徴的な行為をイエスは命令された。
- ・13節「油」は古代には医薬品として用いられた（イザヤ1:6）、弟子たちは油を塗って病人をいやした。しかしイエスはいやしのために油を用いられなかった。ている。安息日が終わればその規定は解かれるから、香料を買いに行くことができるわけである。

★説教

ある日、イエス様は12人の弟子たちを呼ばれました。「これからみなさんを村や町へ宣教のために遣わします。」

これを聞いた弟子たちはびっくりしたと思います。イエス様と出会って、まだあまり年月が過ぎていなかったからです。

イエス様は言われました。「旅には杖1本しか持って行ってはいけません。ただ、履物は履いていきなさい。パンも入れ物も、お金も持って行ってはいけません。下着も1枚だけです。」弟子たちは、またまたびっくりしました。イエス様は厳しいなあと思いました。わたしたちが旅行に出かける時、かばんの中には日にち分の着替えや洗面道具、バスタオルを入れますね。薬やいつもより多めのティッシュも入れると思います。お金も多少はなければ不安です。大きな荷物になります。でもイエス様が持って行くのをゆるされたのはわたしたちの必要最小限にとっても満たないものでした。

続けてイエス様は言われました。「目的の家に入ったら、そこでお世話になって神様のお話をしなさい。もし、目的の場所でみなさんが話す神様のお話を聞いてもらえないときは、足の裏についたほこりを払い落として次の町に行きなさい。」

弟子たちはイエス様が命令されたことができるだろうか不安になりました。でも大丈夫。イエス様は弟子たちを二人ずつ組にしてくださいました。わたしたちも一人で知らないところへ行くよりも、だれかお友だちが一緒だと安心ですね。たとえ泊るところが見つからなくても、二人なら心強いです。神様のお話をされていて途中でわからなくなっても助け合うことができますね。

弟子たちはイエス様の命令どおり、出かけました。弟子たちが語った神様のお話は、町や村の人々の心を暖かくしました。いつも会堂でラビ（先生）から聞くお話とは全く違っていました。たくさんの病気の人がいましたけれど、弟子たちが油を塗ってあげると治ってしまいました。弟子たちは、イエス様から汚れた霊を追い出す力をもらっていたことが本当だと感動したと思います。弟子たちがした神様のお話も、病気の人のいやしも、イエス様がしてくださったことと同じでした。弟子たちは神様がおられることを身をもって知りました。

イエス様は神様のお話を広い地域の人たちに知ってもらうために、弟子たちを用いられました。弟子たちの旅の荷物が極端に少なかったり、出会ってまだ年数があまり過ぎていない弟子たちを用いられることを思うと、イエス様がされることはわたしたちの考えをはるかに越えていることがわかります。でもわたしたちはイエス様のわざを通して、イエス様がいつもわたしたちと一緒にいて守ってくださることを知らされているのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 2 9 番

1 0 6 番

やってみよう

☆みことばアイスクリームを作ろう

<用意するもの>

空のミルク缶、空のコーヒー缶（蓋がしっかり閉まるものならお茶缶や海苔缶などでもいい）

新聞紙、ガムテープ

A：牛乳150ml、砂糖40g、バニラエッセンス1,2滴、生クリーム50ml

B：氷、塩（氷100gに対して30g）

- ① コーヒー缶にAの材料を入れ、蓋をしてガムテープでしっかり封をする。
- ② ミルク缶の中にコーヒー缶を入れて、まわりに氷を詰める。
- ③ お塩をたっぷりぐらい入れて、蓋をしてガムテープでしっかり封をする。
- ④ 新聞紙でぐるぐる巻きにし、さらにガムテープでぐるぐる巻いてボールにする。
- ⑤ みんなで輪になり、4つに区切ったみことばを言いながらサッカーをする。

「一二人は」キック「出かけて行って」キック「悔い改めさせるために」キック
「宣教した」キックを何度も続ける。

15分ぐらいで、おいしいアイスクリームが出来上がります。

※ お塩が少ないとうまくできません。

★今週の聖句

「パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。」

マルコによる福音書 6:43

★ねらい

- ① 困窮した民衆を奇蹟によって養う「良い羊飼い」としてのイエス様の恵み豊かさにふれる。

★説教作成のヒント

- ・ 弟子たちが初めての宣教体験を報告した直後のことである。杖1本の他は何も持たない旅で、神の支配を身をもって知る旅であった。イエスは疲れて帰った弟子たちに休息を取らせる。
- ・ そこへ群衆が殺到した。群衆は疲れた弟子たちに遠慮するゆとりもない、困窮状態であった。イエスは生きる糧を求める群衆に心を向けた。
- ・ イエスの心が非情に激しく揺さぶられた。これだけ大勢の群衆をイエスが奇蹟をもって豊かに養ってくれた。残り物が溢れるほどに残った。

豆知識

- ・ 34節、「深く憐れむ(スプラングニゾマイ)」の言葉はもともと「内臓がよじれる」という意味で、からだに痛みを覚えるほどに憐れむことを表す。この言葉は、神かイエスのみに用いられる。
- ・ 37節、「200デナリオン」。1デナリオンは当時の一日分の賃金に相当し、ここでは200日分の賃金に相当する金額である。
- ・ 旧約聖書ではエリシャがわずかなパンと穀物で百人を満腹させた(列王記下4章42節以下)。しかしイエスの奇蹟はけたはずれに大きい。
- ・ 43節、残り物が「十二の籠いっぱいになった」の十二は「完全数」を表す象徴的な数字である。あふれるほどに残ったことを示す。
- ・ 44節、「男が5千人であった」は、女性や子どもを無視したのではなく、群衆の数の大きさを強調している。

★説教

聖書の詩編23編にこういう言葉があります。「主は羊飼い。わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる」。イエス様は良い羊飼いとしてわたしたちを豊かに養ってくださることが今日のお話のポイントです。

暑い夏をわたしたちは過ごしています。のどが渇きます。わたしたちは冷やした水をコップ1杯飲めるとまた元気になります。

もし、心に元気がなくなったらどうしますか。何をしてもうまくいかないと思う時があると思います。イエス様のまわりにはいつもたくさんの人たちがいて、助けを求めていました。イエス様はやさしく神様のお話をしてくださいました。イエス様のお話を聞いた人たちはまた元気になって家に帰りました。

ある日、イエス様の弟子たちが初めて宣教活動をして帰ってきた時のことです。弟子たちは疲れ果てていたのでイエス様は弟子たちを休ませるために、静かな所へ行こうとしました。そこに大勢の人たちがかけよってきました。弟子たちはかなりくたびれていましたが、大勢の人たちはくたびれた弟子たちに気を使えるようなゆとりはありません。イエス様はそんな人たちをかわいそうに思われました。その思いは、イエス様の内臓がよじれるほどの痛みでした。

イエス様はみんなにお話をしてくださいました。たくさんのお話をしてくださいました。かなり長い時間、お話をしてくださいました。

夕方、夕食の時間になりました。弟子たちは人々を解散させてくださいとお願いしました。イエス様は弟子たちに言われました。「あなたがたがあの人たちに食べ物をさしあげなさい。」弟子たちはびっくりしました。弟子たちの前には数えきれないくらいの大勢の人たちがいたのです。しかも、手元にあるのはパン5つと魚2匹だけです。切り分けて配ったとしても、ひとりの分はほんの少しです。イエス様はみんなをグループに分けて、青草の上に座らせるように命令されました。先ほどの詩編 23 編の言葉を思い出しますね。イエス様は5つのパンと2匹の魚を取り、神様にお祈りをして、パンと魚を弟子たちにわたして配ってもらいました。するとどうでしょう。たった5つのパンと2匹の魚で、5千人の男の人がおなかいっぱいになりました。しかもパンくずと魚の残りを集めると、12の籠にいっぱいになりました。少ないもので多くの人たちが元気になりました。イエス様の奇蹟がいかに大きなものであったかがわかります。

このイエス様のわざを通してわたしたちは、たったひとりのイエス様が十字架の上で犠牲になってくださって、数多くの人々を救ってくださったことも心に留めていきたいと思います。そのひとりに、今、教会でお話を聞いているわたしたちもいます。イエス様はわたしたちに元気をくださる「良い羊飼ひ」、神様の子です。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

104番

21番

やってみよう

☆うちわを作ろう

<用意するもの>

厚紙をまるく切ったもの（1人2枚）、わりばし、セロテープ、のり

- ① 1枚に2ひきの魚と5つのパンの絵を描く。
- ② もう1枚には、小さい魚とパンをいっぱいいっぱいたくさん描く。
- ③ 1枚にセロテープでわりばしを貼り付ける。
- ④ もう1枚をのりで張り合わせるとうちわの完成。

「2ひきの魚と5つのパンが、あら不思議！」

☆ポップコーンを作ろう

<用意するもの>

ポップコーンの種、紙コップ、お鍋、サラダ油

- ① ポップコーンの種を人数分の紙コップに分ける

「そのままでは、食べられないよね」

- ② 鍋にそれぞれの持っている種を入れてもらい、ポップコーンを作る。

できあがったポップコーンを「神様の恵みを受けるとあら不思議！こんなに増えたよ～」と言って紙コップに分けていただきます。

★今週の聖句

「安心しなさい。わたした。恐れることはない。」

マルコによる福音書 6:50

★ ねらい

- ① わたしたちがどこにいてもイエス様はわたしたちの救い主です。

★説教作成のヒント

- ・弟子たちにとってガリラヤ湖は知り尽くした場所であり、突風の時にどうすればよいかは心得ていた。しかし、時に経験を越え、知識も及ばない出来事が襲う。弟子たちの視野にイエスのお姿は入らず、海の嵐しか目に入らない。
- ・そばを通り過ぎようとしたイエスの姿を見た弟子たちはイエスを幽霊だと思い込み、恐怖におののいた。イエスはすぐに弟子たちに声をかけられた。弟子たちはイエスの存在がわかったとき、恐れから解放された。

★ 豆知識

- ・ 45 節、「ベトサイダ」は、ガリラヤ湖の北側の岸、ヨルダン川がガリラヤ湖に注ぐ河口の東側にある町。そこはペトロ、アンデレ、フィリポの出身地であった（ヨハネ1章44節）。
- ・ 46 節、「祈るために山へ行かれた」は、イエスが祈ることに専念するために山に登ったことを表す。
- ・ 48 節、「夜が明けるころ」は、「第四夜回りのころ」である。「夜回り」はローマ軍の夜警のための時間の数え方であった。午後6時から翌朝の6時までを4等分し、四交代で見張りをしていた。第四夜回りのころとは、午前3時から6時までの時間帯である。
- ・ 48 節、「通り過ぎる」は神様がここにおられることを表現している（出エジプト33章21?23節）。神様はモーセに後ろ姿をお見せになるかたちで表れてくださり、モーセをほったらかしにされたわけではない。

★説教

イエス様の弟子たちは、イエス様の命令通り、杖1本だけを持って宣教活動をしました。無事に終えて、自分たちが行なったことをイエス様に報告しました。弟子たちはイエス様からお休みをいただいたものの、イエス様に助けを求める群衆によって、弟子たちはじゅうぶん休むことができませんでした。

でも、弟子たちはお休みをとれないかわりに、イエス様の大きな奇蹟をまた間近に見ることができました。たった5つのパンと2匹の魚が5千人の大人の食事となってみんな満腹した奇蹟です。「イエス様の力はすばらしい」と弟子たちは思いました。でも、それだけではありませんでした。「あのイエス様の弟子である自分たちも、特別な存在かもしれない」という特権意識のようなものを持ったと思います。

イエス様は弟子たちを船に乗せて向こう岸へ行くように言われました。イエス様は弟子たちと群衆と別れて山でお祈りをされました。

夕方が過ぎ、夜になりました。弟子たちが乗った船は湖の真ん中です。

突然、大きな風がビューッと吹いてきました。ガリラヤ湖は突然、大嵐になります。でも、弟子たちの多くはもともとガリラヤ湖で漁師をしていました。長年の経験があります。自分たちはさっき大きな奇蹟を見せてくださったあのイエス様の弟子だという誇りもあったかもしれません。「大丈夫、大丈夫。このくらいの嵐は、よくあることよ」と言ったものの、嵐はなかなかおさまりません。「なんてこったい。こんな嵐は経験したことがない」「前に進まないぞー」「しっかりつかまれー」。今まで経験したことのない大きな嵐はおさまりません。「こんな大嵐の中、どうしたらいいんだろう」「生きて帰ることができるだろうか」と弟子たちはしがみつきながら思いました。すると、夜が明ける時間、向こうから湖の上を歩いて来る人がいます。「人が湖の上を歩けるものか」「幽霊だろうか」。その人は船を通りすぎようとします。「そうだ、幽霊だ」「幽霊だ。幽霊を見てしまった!」。弟子たちは恐ろしくなって大声で叫んでしまいました。

弟子たちが幽霊と間違えた人が声をかけてくださいました。「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」。イエス様の声でした。イエス様が弟子たちの船に乗られると、なんと風は静まりました。

弟子たちはイエス様から選ばれた弟子ということで少し自慢げでした。でも自分たちの手に負えない大嵐の中で、イエス様の奇蹟を見たことも自分たちはイエス様の弟子であることもすっかり忘れてしまいました。イエス様はそんな弟子たちをおしかりになりませんでした。イエス様が神様の子である本当の力を見せてくださいました。大嵐ですらイエス様に従いました。弟子たちはこの出来事を忘れることはなかったと思います。イエス様は、弟子たちが困ったままにはされません。わたしたちもそうです。わたしたちがイエス様を忘れているときもいつもそばにいてくださり、助けてくださいます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

3 5 番

1 2 4 番

やってみよう

☆信じて歩こう

<用意するもの>

目隠し用のタオルなど2人に1枚（もしくは持ってきてもらう）

- ① 2人ペアになって、1人が目隠しをする。
- ② もう1人が、声だけで誘導して教会の中や庭を歩く。
- ③ 次に、しっかり手をつないで同じように歩いてみる。
- ④ 今度は、目隠しする人を交代して同じように、声のみ、手をつないで歩いてみる。
- ⑤ 声だけの時と手をつないでいた時とどうだったか話してみる。

「イエス様は、みんなの手をしっかりとつないで歩いてくれます」

最後にみんなで輪になって隣の人としっかりと手をつないでお祈りしましょう。

2009年8月30日 聖霊降臨後第12主日

マルコ 7:1-15 申命記 4:1-8 エフェソ 6:10-20

★今週の聖句

「人の中から出てくるものが、人を汚すのである。」

マルコによる福音書 7:15

★ ねらい

① イエス様はわたしたちに十字架のものさしをくださった。

★説教作成のヒント

- ・ 正統な立場にあると自認している者たちにとって、自分たちが重んじている律法や伝統、生活様式がイエスの弟子たちによって破られてしまうことに我慢できなかった。もともと「神の掟」は、人間の生きるべき道を神が示されたものであったが、人の手によって有害なものに変えられてしまったことをイエスは厳しく批判された。

★ 豆知識

- ・ 2節、「汚れた」は、律法に照らして祭儀的に汚れていること。衛生的なことが問題とされているのではない。
- ・ 12節、「コルバン」は、「神への供え物」を意味するヘブライ語である。ある物について「これはコルバンである」と宣言すると、実際に神に供えられなくても、神への聖なる供え物とされ、本来の目的に使うことができなくなる。イエスは「父母を敬え」（出エジプト 20章 12節）の形骸化の例として用いられた。

★説教

イエス様は今日、わたしたちに問われています。わたしたちが堅く守っているのは、神様の掟ですか、それとも自分たちの言い伝えですか。

ことの発端は、ファリサイ派や律法学者の人たちが、イエス様の一部の弟子が手を洗わないで食事をしていたということから始まります。不衛生な手で食べるとおなかをこわしますよ、という意味ではありませんでした。宗教的にけがれが清められていない手で食事をするのはけしからんという意味でした。

イエス様はファリサイ派のまちがいを指摘してくださいました。「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている」「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである」。これはイエス様の言葉です。

ファリサイ派や律法学者の人たちは、神様がくださった律法を守ろうと真剣であった人たちです。律法は神様がこう行ないなさいと命じられたことです。わたしたちは神様って厳しいなあと思います。けれども、わたしたちは律法をくださった神様のみこころを思い起こさなければなりません。

十戒の前文にこうあります。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」（出エジプト 20章 2節）。神様にとってイスラエルの民は、特別に愛してくださった民です。エジプトという外国で、奴隷の身分であってはいけない、もともと先祖が住んでいたパレスチナに帰り、自由の身分となって生きていきなさい。そういった神様のみこころが出エジプトへと導いてくださいました。神様の力によって奴隷状態から自由の身分にいただいたという大きな

奇蹟をイスラエルの民は経験しました。その大きな奇蹟を覚え、神様に感謝して生きるにはどうしたらよいか具体的には十戒に記されているのです。神様の戒めとは、神様を愛し、隣人を愛する生き方でした。人々はそうできるはずでした。けれどもだんだんと人々は十戒をさまざまに解釈して教えるようになりました。その解釈は、結局は自分自身のものさしではかったやりかたでした。人々はあとで付け加えた自分のものさしの方が、あたかも神様の掟であるかのように教えていきました。

わたしたちは何を堅く守っているのでしょうか。神様の掟でしょうか。それとも自分たちの言い伝えでしょうか。

人間の言い伝えにどっぷりつかってしまったわたしたちに、イエス様は十字架の上で犠牲になってくださることを通して、神様の愛をあらためて教えてくださいました。イエス様は、わたしたちが自分のものさしを捨て、イエス様のものさしに従う生き方を教えてくださいました。ファリサイ派の人たちのように人を非難するのではなく、イエス様がしてくださったように愛をもって支え合うように教えてくださいました。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

3 番

9 7 番

やってみよう

☆お友達のことをよく知ろう

- ① 2人ペアになって、自己紹介をします。そして、いろんなことを質問しあったりして、相手のことよく知ってください。好きなこと、苦手なこと、はまっていること、好きな食べ物、習い事、将来の夢、何でもいいです。できるだけ、相手の良いところを見つけてあげてください。
- ②次に相手のことをみんなに紹介します。

「いつも教会学校で遊んでいるお友達の新しい発見はありましたか？

学校などで、人のうわさや見た目だけであまりよく知らないのに人の事を悪く言ったことはないですか？

あまり好きではない友達もいるかもしれないけど、どうすれば仲良くできるかな？

考えてみましょう。」